

なんてパワフル! とても感動した。
この作品と、ジャ・ジャンクーの才能に
敬意を表したい。

—スティーブンスピルバーグ

(第66回カンヌ国際映画祭審査員記者会見より)



BEST SCREENPLAY
FESTIVAL DE CANNES

第7回アブダビ映画祭 最優秀作品賞
第50回台湾金馬獎 最優秀音楽賞(リン・チャン)、最優秀編集賞
2013年トロント映画批評家協会賞 最優秀外国語映画賞
2013年フランス映画批評家協会賞 最優秀外国映画賞

第66回カンヌ国際映画祭 脚本賞

罪の

A
Touch
of Sin

手ざわり

世界がその真実に
震えた! 涙した!
罪を犯さずにはいられなかった
人びとの怒りと哀しみが胸をうつ、
衝撃と慟哭の物語。



BEST SCREENPLAY
FESTIVAL DE CANNES

カンヌ、ベルリン、ヴェネチアの
世界三大映画祭を制覇した名匠ジャ・ジャンクー
新境地にして到達点であり最高傑作!

第66回カンヌ国際映画祭脚本賞受賞!

圧 倒的な画力、社会性と娯楽性あふれるストーリーでカンヌ映画祭の観客を魅了し、共感の喝采を浴びた本作。上映に駆けつけたトニー・レオンやチャン・ツイーも「すばらしい!」と大絶賛をおくった。そして、審査員長のスティーブンスピルバーグをはじめ、ニコール・キッドマン、アン・リー、河瀬直美ら審査員は「4つのエピソードは実在の事件に基づいている。現実には彼らは犯罪者として本国で報道されているが、映画では罪を犯した彼らに心が動かされるように描かれている。そこに監督の勇気を感じるし、私たち観客、そして世界の人びとそれぞれに考えさせるものがある」と評価。見事脚本賞を受賞した。



華泰茶莊 渋谷店(渋谷区道玄坂1-18-6) Tel. 03-5728-2551 www.chinatea.co.jp

初日プレゼント

5/31(土)ご来店の方、先着60名様に
「華泰茶莊オリジナルティーバッグ&
お茶うけサービス券」をプレゼント!



オリジナル・セットメニュー

中国緑茶とドライフルーツセット
特別価格1,000円(税別)で
ご提供します。

お得な半券割引

『罪の手ざわり』劇場鑑賞券の
半券持参で茶葉・茶器のお買
上げ金額より5%割引します。

東方書店 東京店(千代田区神田神保町1-3) Tel. 03-3294-1001

5/24(土)～、ジャ・ジャンクー関連書籍 ブックフェア開催決定! 詳細はHPで www.toho-shoten.co.jp

*『罪の手ざわり』劇場鑑賞券の半券持参でご来店の方に粗品進呈します。

Bunkamuraル・シネマにて
公開記念トークショー開催決定!

5/31(土) ゲスト:藤井省三さん(現代中国文学者/東京大学文学部教授)
6/7(土) ゲスト:宮沢章夫さん(劇作家・演出家・作家)

開催時間など詳細については映画公式HPへ
www.bitters.co.jp/tumi

罪の手ざわり

中国語題:天注定 英語タイトル:A Touch Of Sin 監督:脚本:ジャ・ジャンクー 撮影:ユー・リクワイ 音楽:リン・チャン
製作:Xstream Pictures、上海電影集団、山西影視集団、バンダイビジュアル、ピタース・エンド/オフィス北野
出演:チャオ・タオ(『長江哀歌』)、チャン・ウー(『このころの湯』『活きる』)、ワン・バオチャン(『イノセントワールド』『天下無賊』)、ルオ・ランシャン
2013年/129分/中国=日本/DCP 配給:ピタース・エンド、オフィス北野 ©2013 BANDAI VISUAL, BITTERS END, OFFICE KITANO

5/31(土)ロードショー 東京 Bunkamuraル・シネマ
渋谷・東急本店ヨコ 03-3477-9264 www.bunkamura.co.jp

特別鑑賞券絶賛発売中 ¥1,500 (税込/当日一般¥1,800の処) 劇場窓口にてお買い求めの方に限り、オリジナルポストカードプレゼント! (数量限定)

6/7(土)～ 大阪	シネ・リーブル梅田 06-6440-5930	6/7(土)～ 京都	京都シネマ 075-353-4723	6/14(土)～ 神奈川	横浜シネマ・ジャック&ベティ 045-243-9800
6/14(土)～ 千葉	千葉劇場 043-227-4591	6/14(土)～ 愛知	名古屋シネマテーク 052-733-3959	6/21(土)～ 広島	広島サロンシネマ 082-241-1781
6/21(土)～ 福岡	KBCシネマ 092-751-4268	6/28(土)～ 北海道	シアターキノ 011-231-9355	6/28(土)～ 兵庫	シネ・リーブル神戸 078-334-2126

6/28(土)～◎岡山/シネマ・クレール/086-231-0019 7/4(金)◎長野/松本CINEMAセレクト/0263-98-4928 7/12(土)～◎群馬/シネマテークたかさき/027-325-1744 三重/進富座/0596-28-2875 大分/シネマ5/097-536-4512 沖縄/桜坂劇場/098-860-9555 7/26(土)～◎石川/シネモンド/076-220-5007 近田◎岩手/盛岡ミエール/019-625-7117 宮城/桜井薬局セントラルホール/022-263-7868 山形/MOVIE ON やまがた/023-682-7222 山形/鶴岡まちなかキネマ/0235-35-1228 長野/長野ロキシー/026-232-3016 富山/フォルツァ総曲輪/076-493-8815 神奈川/川崎市アートセンター/044-955-0107 静岡/シネ・ギャラリー/054-250-0283 静岡/シネマ_e_ra/053-489-5539 愛媛/シネマルナティック/089-933-9240 佐賀/シアターシエマ/0952-27-5116 熊本/Denkikan/096-352-2121 宮崎/宮崎キネマ館/0985-28-1162 鹿児島/ガーデンスシネマ/099-222-8746 他、全国順次公開

彼らはなぜ罪に触れてしまったのか？なぜ罪を犯さずにいられたのか？ 人間の尊厳と暴力をめぐる、激しくも哀しい真実の物語。

男は咆哮して虎に変身し、女は身をくねらして蛇に変身し、けだものと呼ぶしかない人間どもを屠る。馬と牛とがそれを寡黙に祝福するという現代中国のこの武俠的な変身譚を、見逃してよいはずがない。

ジャ・ジャンクーの演出が、彼自身を思いきり変身させていることを、心から祝福せずにはいられない。必見。

——蓮實重彦 (映画評論家)

短編『In Public』が好きだ。

この『罪の手ざわり』も場所の持つ力を描いた作品だと思う。

今年度No.1です、今のところ。

——ホンマタカシ (写真家)

暴力は、それ自体が、洗えども洗えどもぬめって取れない血糊のようなものなのだ、この映画を見てひどく実感した。

——西川美和 (映画監督)

リアルなものと詩的なものが両立している。今までと同様、きちんと人間を描きつつ、暴力に正面から向き合っている。いい意味で驚きだった。

——是枝裕和 (映画監督)

映画の中の映画、って何か知らないけど映画の中の映画って気がした。

俺の中で何かが目覚めたし……。

それにしても久しぶりに余韻の残る映画を拝見したね。

——寺島進 (俳優)

広がる空は青く、流れる血は紅く、夜の風景は哀しい湿り気を含み、人々の顔には茫漠とした表情が浮かぶ——物語の「刺激」を、映像が淡々と語っていて、その力に圧倒された。凄い！おもしろい！

——森田聖美 (『フィガロジャボン』副編集長)

圧倒的なリアリティをもって描かれる人間の業に、深く心を揺さぶられる。

——立石和浩 (『クロワッサン』編集部)

深い水底から銃声が響くように聞えた。重い音。あるいはナイフが皮膚を引き裂くときもまた、その音はずっしりとしている。そこに至るまでの人物の姿を丁寧に追い細部の積み重ねのなかに普遍的な現在の暗部が描かれる。

淡々とした表現。無表情で静かな彼らは、けれど饒舌だ。

——宮沢章夫 (劇作家・演出家・作家)

とても素晴らしい映画！

舞台となる空間や使われるオブジェクトの形や色が印象的で、画面の作り方が完璧。

人間のちょっとしたもやもやが爆発する舞台としては最高でした。

俳優たちの演技も素晴らしかったです。

——小山登美夫 (ギャラリスト)

圧倒的な映像の美しさは、大国の片隅に暮らす人々の悲しみを繊細に語ってくれる。ジャ・ジャンクーという才能が新しい境地に辿り着いたように思え、私は興奮している。

——渡辺真起子 (女優)

人間の欲望、怒り、尊厳、切なさ……すべてが凝縮されたパワフルな力作。冒頭のシーンに痺れ、ラストまで監督のエネルギーに圧倒された。

——弓山奈穂実 (『エル・ジャボン』編集部)

*順不同、敬称略

怒りと哀しみを代弁する 中国古典演劇の 名作たち

京 劇の世界を舞台にした映画「さらば、我が愛／霸王別姫」や『梅蘭芳』などで日本人にもなじみの深い中国古典演劇。本作の劇中では、古典演劇の代表的な演目「林冲夜奔」と「玉堂春」が登場する。12世紀初めの中国を舞台に、悪徳官吏と戦うならず者たちを描いた「水滸伝」の主要キャラクターの一人、林冲を主人公に据えた「林冲夜奔」からは、やむなく殺人を犯した林冲が梁山泊へと逃れるべく決意を述べる場面が、殺人の濡れ衣を着せられた若い女性が最後に自由を勝ち取る物語「玉堂春」からは、ヒロイン蘇三が裁判官からなじられる場面が、それぞれ引用され、映画の登場人物たちの心情にリンクして、ドラマチックな余韻を残す名シーンとなっている。

林冲 水滸伝 夜奔

我が名は、林冲
憤怒により剣を抜き
高俅の部下を殺した
幸いにも柴進殿が
書状をくれて
梁山泊へ行ける



悪徳裁判官の心変わり
人殺しと決めつけられ
口では勝てない
私は自白を強要された
涙が流れる…
蘇三、自分の罪を認めるか？
お前は自分の罪を認めるか？

玉堂春